

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(3)-イ	ブルーエコノミーの先導的な展開	施策	③海洋政策の総合的推進
			施策の小項目名	○海洋政策推進の新たな拠点の設置促進
主な取組	国の「海洋政策センター（仮称）」の設置促進		対応する成果指標	海洋政策事業に係る関係団体数（事業者、研究機関等）
施策の方向	・持続可能な海洋島しょ圏の発展、海洋立国と国際社会への貢献を基本方向に、我が国の海洋政策推進の新たな拠点となる国の「海洋政策センター（仮称）」の設置を促進し、調査研究体制の充実、海洋環境・資源の利活用、離島地域の活性化など、ブルーエコノミーを先導する地域として海洋政策を総合的に推進します。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
国の「海洋政策センター(仮称)」の設置検討に向けて、県として情報収集及び可能性調査等を実施する。	県	「海洋政策センター(仮称)」の設置促進		
		「海洋政策センター(仮称)」の設置検討に向けた可能性調査等		
		情報収集	実施	実施
担当部課【連絡先】	企画部企画調整課	【 098-866-2026 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	-			予算事業名	振興推進事業費	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
-	-	-	-	主な財源	実施方法	当初予算額
令和4年度活動内容				県単等	委託	5,500
海洋政策の総合的な推進にあたり、次年度実施予定の基礎調査に向けた情報収集を実施する。				令和5年度活動計画		
				海洋政策の総合的な推進にあたり、今後の本県の海洋政策の方向を検討する基礎調査を実施する。		

活動指標名	「海洋政策センター（仮称）」の設置検討に向けた可能性調査等		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	-	-	情報収集	情報収集	100.0%	順調	本県が海洋の持続可能な経済開発であるブルーエコノミーを先導する地域として「海洋政策の総合的な推進」を検討するため、県内外の4名の有識者にヒアリングを実施。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
令和5年度の基礎調査の実施に向けた情報収集となっており、計画どおり実施している。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
—	・オンラインを活用して県内外の有識者にヒアリングを実施した。また、事前に必要な資料や情報共有を行い、ヒアリング時間を有効に活用した。

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	有識者ヒアリングのみの実施であったため、その他の情報収集についても実施する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
① 執行体制の改善	有識者ヒアリングの対象分野を広げるとともに、国内外の取組事例や既往調査等の整理を行う。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(3)-イ	ブルーエコノミーの先導的な展開	施策	③海洋政策の総合的推進
			施策の小項目名	○海洋環境等の調査研究・ネットワーク形成等の推進
主な取組	海洋に関する研究情報及び成果情報の共有		対応する成果指標	海洋政策事業に係る関係団体数(事業者、研究機関等)
施策の方向	・OISTや琉球大学、研究機関等との国内外のネットワーク形成を視野に入れた産学官の相互連携、海洋生物資源の持続可能な利活用の共同研究や、ブルーカーボンなど海洋生態系の活用可能性の検討等に取り組むとともに、持続可能な海洋島しょ圏を支えていく海洋人材の育成・確保を推進します。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
県内10の機関で構成するおきなわマリンサイエンスネットワークの事務局を琉大、OISTと持ち回りで 行い、海洋に関する研究を発表するワークショップ を開催する。□ □	県関係団体	沖縄県、OIST、琉大の持ち回りで運営されているおきなわマリンサイエンスワークショップの開催		
		会議開催数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課□連絡先	企画部科学技術振興課	【 098-866-2560 】	関連URL	-□

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	-□			予算事業名	-	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
-	-	-	-	主な財源	実施方法	当初予算額
-	-	-	-	-	-	-
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
事務局として、おきなわマリンサイエンスワークショップ、県内大学・研究機関等と海洋研究に関する情報共有及び意見交換を行った。				おきなわマリンサイエンスワークショップに参加し、県内大学・研究機関等と海洋研究に関する情報共有及び意見交換を行う。		

活動指標名	会議開催数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	1回	1回	1回	1回	100.0%	順調	県内10の機関で構成するおきなわマリンサイエンスネットワークの事務局を琉大、OISTと持ち回りで行い、海洋に関する研究を発表するワークショップを開催した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

おきなわマリンサイエンスワークショップを事務局として開催し、7つの機関が参加し、研究発表(8件)、ポスターセッションを行った。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度はウェブ開催であったが、交流を活発化させるために実地開催に戻す。	実地開催としたことで、ポスターセッションも行えた事などから更なる研究交流の促進に繋がった。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	<p>実地開催としたことで、ポスターセッションも実施でき、活発な研究交流に繋がった。</p>	② 連携の強化・改善	<p>更なる研究交流の促進に繋がるよう、実地開催の効果等を令和5年度のワークショップ事務局(琉球大学)へ伝達する。</p>